

# 埋文やまがた



1996年3月28日

第4号



寒河江市高瀬山遺跡第6調査区の古墳検出状況

1995年7月13日遺跡の西方上空から撮影

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURE ARCHAEOLOGY CENTER

〒999-31 山形県上市市弁天二丁目15番1号 TEL 0236-72-5301(代) FAX 0236-72-5586

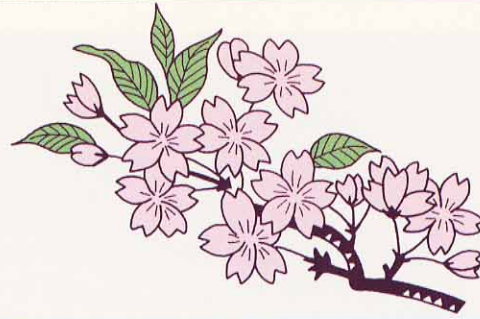
## 平成7年度遺跡発掘調査の概要と一覧

山形県埋蔵文化財センターでは建設省、日本道路公団、山形県、山形県教育委員会から委託を受け高速道路建設や県営ほ場整備などに先だつて遺跡の発掘調査を実施しました。

本調査は21遺跡、予備調査は2遺跡をおこないました。

調査面積は166,754平方mになります。下記にその内容を簡単にまとめました。

No.	遺跡名	所在地	調査期日	期間 :日	調査面積 :平方m	調査の原因と方法
1	北目長田遺跡	遊佐町大字北目字長田	95/5/8～95/8/11	69	7,920	県営ほ場整備事業に先立つ本調査
2	<small>そりまち</small> 櫓待遺跡	遊佐町大字北目字長田	95/6/20～95/7/19	5	1,500	〃
3	宮ノ下遺跡	遊佐町大字北目字宮ノ下	95/5/8～95/9/13	87	10,150	〃
4	西谷地遺跡	鶴岡市大字下川字西谷	95/5/8～95/9/14	88	14,200	〃
5	向田遺跡	酒田市大字本楯字向田	95/5/8～95/7/6	44	3,500	〃
6	落合遺跡	村山市大字土生田字落	95/10/2～95/11/22	35	382	ふるさと農道緊急整備事業に先立つ本調査
7	<small>わたど</small> 渡戸遺跡	天童市大字山口字渡戸	95/5/8～95/8/11	69	1,500	広域営農団地農道整備事業に先立つ本調査
8	上荒谷遺跡	天童市大字荒谷字上荒谷	95/5/8～95/6/30	38	1,700	主要地方道天童寒河江線地方特定道路整備事業に先立つ本調査
9	荒川2遺跡	米沢市塩井町塩野字荒川下	95/7/17～95/11/30	88	7,200	国道121号道路改良事業に先立つ本調査
10	下柳A遺跡	山形市大字青柳字上柳	95/4/24～95/8/11	78	5,000	県立保健医療短期大学(仮称)整備事業に先立つ本調査
11	野向遺跡	小国町大字市野々字野	95/9/18～95/11/2	31	1,700	横川ダム建設に先立つ予備調査
12	市野々向原遺跡	小国町大字市野々字向	95/9/18～95/11/2	31	1,600	〃
13	三条遺跡	寒河江市大字寒河江字三条	95/5/8～95/11/30	138	15,100	東北横断自動車道酒田線建設工事に先立つ本調査
14	高瀬山遺跡(1)	寒河江市大字寒河江字高瀬山	95/5/8～95/12/1	140	12,130	〃
	高瀬山遺跡(2)	寒河江市大字高瀬山字山西	95/5/8～95/12/1	138	41,700	〃
15	<small>おとちちやうじややしき</small> 落衣長者屋敷遺跡	寒河江市大字柴橋字金谷地	95/5/8～95/11/30	136	17,700	〃
16	高松II遺跡	寒河江市大字柴橋字高松	95/8/7～95/10/27	52	6,000	〃
17	高松III遺跡	寒河江市大字柴橋字高松	95/7/10～95/8/11	24	1,000	〃
18	平野山古窯跡群 第12地点遺跡	寒河江市大字柴橋字高松	95/8/21～95/12/8	75	4,700	〃
19	<small>とやま</small> 富山遺跡	寒河江市大字谷沢字富山	95/5/8～95/7/20	54	2,720	〃
20	富山2遺跡	寒河江市大字谷沢字富山	95/7/17～95/8/12	21	1,300	〃
21	<small>つちさき</small> 土崎遺跡	酒田市大字土崎字屋敷添	95/7/11～95/8/4	18	1,050	〃
22	梵天塚遺跡	酒田市大字牧曾根字梵天塚	95/7/24～95/9/29	44	3,500	〃
23	中谷地遺跡	酒田市大字吉田字中谷地	95/9/11～95/11/30	52	3,500	〃



遺跡定義	主な時代	文化財 認定数 :箱	遺跡の特徴
集落跡	平安時代	115	庄内高瀬川右岸の自然堤防上に立地。多数の溝跡と土坑、大規模な掘立柱建物跡を検出。
集落跡	平安時代	1	排水路付設部分のトレンチ調査。遺構・遺物が希薄で、遺物の時期も古代から中世までである。
集落跡	平安時代	87	墨書土器に「伴」「漢」「四天王」「大伴」「神奴」などがある。木製品には挽物・曲物・鋏のほか仏画も出土。
集落跡	奈良時代～中世	80	石帯2点や多量の墨書土器の出土。大規模の建物跡が多く、官衙等に関連をもつ施設であった可能性もある。
集落跡	平安時代	16	自然堤防上の村。井戸側の下に板敷きのある井戸跡を検出。
集落跡	縄紋時代(中期)	52	舌状台地に営まれた集落跡でピットの密集する地区、土坑、住居跡が密集する地域などに分かれる。
集落跡	縄紋時代	229	旧河道の右岸に土器捨場があり、その上方の川岸には集石をもつ土坑が密集している。
集落跡	縄紋時代(前期)	10	石鏃や石匙など狩猟具の出土が多い。底部を壊した完形の深鉢が土坑から出土。
狩猟場跡	縄紋時代	31	半町四方の堀をめぐる中世の館跡。縄紋時代の落とし穴が点在。河川跡から奈良・平安時代の土器が多量に出土。
集落跡	古墳時代	75	県内最古の古墳時代の発火具（火鑽杵）が出土。
集落跡	縄紋時代	3	縄紋時代中期の集落跡。
集落跡	縄紋時代	6	縄紋時代早期から中期まで断続的に営まれた集落。
集落跡	縄紋時代～平安時代	162	奈良・平安時代の居住域先端を取り巻くように、川跡が南北にあり、多量の墨書土器が出土。
集落跡	旧石器時代～平安時代	300	特に掘立柱建物跡が多数検出された。また縄紋時代前期末の大きな集落跡や古墳群も検出。
集落跡	縄紋時代～近世	55	500mにも及ぶ平安時代の溝跡を検出。一辺13m方形の溝に囲われた中世末～近世初頭の墓地を検出。
集落跡	奈良時代～中世	18	遺跡南西に室町時代創建の旧巨海院跡があり、井戸跡や溝状遺構などの中世の遺構との関連が注目される。
集落跡	縄紋時代～中世	45	大溝を境に東側に中世の集落跡が、西側には奈良・平安時代の竪穴住居跡がある。
集落跡	奈良・平安時代	22	柵列に囲まれた竪穴住居跡や、遺物が多量に出土した不整形の遺構がある。
窯業跡	奈良・平安時代	750	9基の窯跡を検出。SQ1窯跡は8世紀代、SQ33窯跡は9世紀代と考えられる。
石材採集跡	旧石器時代	250	石器集中地点を7カ所検出。その中には接合資料も含まれる。層位的には古赤色土とその下層から石器群を検出。
集落跡	奈良・平安時代	25	丘陵谷間の平坦地に立地。8棟の竪穴住居跡を検出。猿投窯産の灰釉陶器（水瓶）が住居跡床面から出土。
集落跡	平安時代	25	標高3mの微高地に建物跡1棟検出。井戸跡や土坑から木製品が多数出土し、ヘラや漆塗椀がある。
墓地跡	中世・近世	22	中世の墓地を検出。溝跡から中世末～16世紀の埋納銭約2,000枚が出土。
集落跡	弥生時代 平安時代	26	標高3mの自然堤防上、地表面下約80cmから土坑に埋設された弥生土器の甕2個体（前期・折衷系土器）が出土。

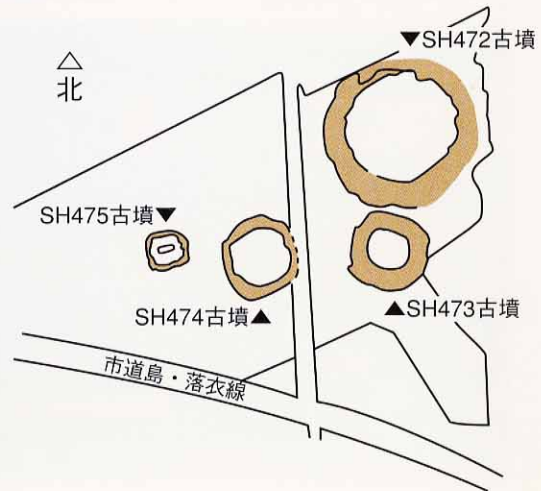
# 遺跡を空から見れば

発掘調査の記録方法に空中写真があります。カメラをつけた気球やラジオコントロール・ヘリコプターなどで撮影します。  
 東北横断自動車道酒田線の建設に先立ち1994年から発掘調査がおこなわれている寒河江市の高瀬山遺跡の空中写真の成果を紹介します。



▲第7調査区から西の方向をみてます。左手には最上川が流れています。

◀第6調査区 表紙写真と同じですが真上から見たものです。古墳が4基検出されました。





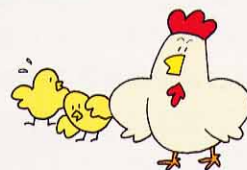
▲第5調査区

溝で区画された中に、  
竪穴建物跡と掘立柱  
建物跡があります。  
見つかった遺構は、  
水で溶いた石灰で輪  
郭を描いています。



◀第1調査区

方形の竪穴建物跡が  
数多く検出されまし  
た。  
南辺や東辺にカマド  
跡があります。



# 遺跡トピックス

## 中谷地遺跡 (酒田市・弥生時代、平安時代)

遺跡は酒田市の東部、吉田新田地区の水田地帯にある、弥生時代と平安時代の集落跡です。標高は2.4mです。平安時代の建物跡が9棟と、この地域ではめずらしい弥生時代の土器が土坑の中から見つかりました。

土坑は地表下80cmのところ検出されました。中には弥生土器の甕が2個体押しつぶされた状態でありました。重なるようにして埋められたようで、墓(再葬墓)の可能性があります。

再葬墓とは遺骸の肉と皮とが消滅して骨と化してから、これらをまとめてあらためて埋葬したり、甕などに入れて埋めたものです。

甕には口の縁に刻みを入れたり、沈線を引いたりした特徴が見られます。これは酒田市生石2遺跡(1985～1986年発掘調査)で発見された弥生時代前期(亀ヶ岡系と遠賀川系の折衷系の土器)に作られたものと同じものです。

酒田周辺では奈良平安時代より下の地層に、さらに弥生時代の遺跡がある可能性が高まりました。

(石井浩幸)



土坑内の弥生土器検出状況



復元された弥生土器

## 富山遺跡 (寒河江市・旧石器時代)

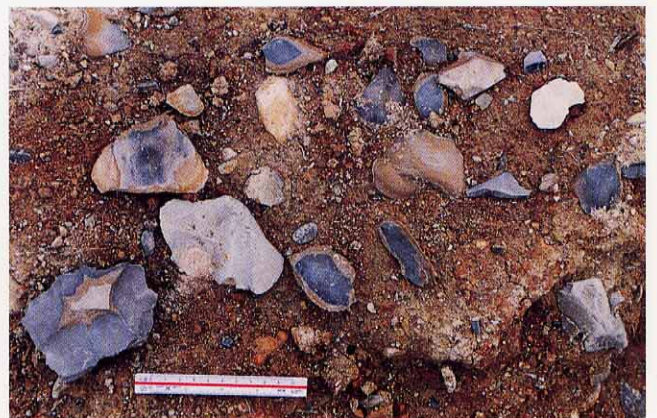
寒河江市の西部、標高266mの富山に続く丘陵の東の山腹に遺跡はあります。石器を作る頁岩を採取した、原石産地遺跡と考えられます。

「富山」には頁岩を含んだ礫層があり、出土した石器はこの礫層の頁岩を用いて作られたようです。石器のほとんどは製品の素材の「剥片」と剥片の素材の「石核」と呼ばれるものです。製品と呼ぶことのできる石器はヘラ状石器とクリーバー(握斧の一種)など数点で、剥片が整理箱にして約750箱も出土したのに対して対照的です。

写真は一つの頁岩の表面から芯に向かって剥がされていった剥片と、剥片を剥がしていった一番最後に残った石核(左下)との接合資料です。石核に剥片を接

合していくことによって、前期旧石器時代の剥片の生産技術を復元できる貴重な資料になります。

(鈴木良仁)



石器の出土状況

# ..... 手形付土製品 .....

西海淵遺跡は村山市富並にある縄文時代中期の遺跡です。平成2・3年に発掘調査されました。今から約4,000年前の大きな集落跡がほぼ全域に渡って見つかった貴重な遺跡です。

集落は中心部に広場を持ち、周りに墓坑群、その外側に貯蔵穴群がめぐり、さらに外周に大型の住居跡が広場から放射状に並んでいました。お墓・穴蔵・家が直径140mの円の中に収まる規模で同心円状にきちんと配置されていることがわかりました。

このお墓の中から1個の板状の焼き物が見つかりました。人の手の形がついた「手形付土製品」です。大きさは約9.3cm×6cmの小判形をしています。その上に長さが9cmくらいの左手が押しつけられています。大きさから判断すると小さな子供の手のひらのようです。その裏側には大人のものと思われる指の痕も残っています。



西海淵遺跡空中写真

このような手形や足形のついた土製品の出土例は全国的にみても少ないようです。今までのところ北日本でしか見つかっていません。いずれも縄文時代中期から後期の物で、その中には吊り下げられたと思われる穴のあいたものや、紋様などの装飾が施されたものもあります。西海淵遺跡のものは山形県内では初めて見つかったものです。

この土製品の用途はわかっていません。子供の無病息災を祈って形どったお守りとも、また子供が歩き始めた記念、魔除けの品などとも考えられています。そうすると、ある縄文時代の村でおかあさん（またはおとうさん）が愛する我が子の手をとって、自分の手に持った粘土に想いをこめて優しく押しあてている姿が浮かぶようです。

その4千年後の平成4年に、西海淵遺跡の調査員夫婦に子供が生まれました。彼女の一歳の誕生日の記念にと手形をとり額に納めました。そして今、



「こんなに小さかっただね」と手形と子供の手を見くらべながら、はるかな昔に生きていた親子の姿に思いをはせています。無事に成人するのも大変なごとであった縄文時代にたくした子供の成長を願う親心の深さを考えずにはいられません。人が手にする「もの」はめざましく変化し発展していても、時を超えた普遍的な人間の「思い」は存在するのだなと感じています。  
(黒坂広美)



表面は子供の手形



裏面は大人の手形

西海淵遺跡出土手形付土製品

## 埋文センターのうごき

### 埋蔵文化財発掘調査報告会

寒河江市内で東北横断自動車道酒田線建設工事に先立ち発掘調査された遺跡の発掘調査報告会が下記のようにおこなわれました。

主催：寒河江市教育委員会  
 共催：財団法人山形県埋蔵文化財センター  
 期日：平成8年3月20日（水）春分の日  
 会場：寒河江市文化センター  
 参加者：約240名

●発表（ホール・スライド映写）

- 1 高瀬山遺跡 佐藤庄一
- 2 富山遺跡・富山2遺跡 鈴木良仁
- 3 三条遺跡 水戸弘美
- 4 落衣長者屋敷遺跡 黒坂雅人
- 5 高松II・III遺跡 氏家信行
- 6 平野山古窯跡第12地点遺跡 須賀井明子

●出土遺物・写真パネルの展示（第1研修室）  
 山形県埋蔵文化財センター発表者外のスタッフ  
 黒坂雅人、伊藤邦弘、植松暁彦、押切 淳  
 川田喜信、志田純子、松田亜紀子



発掘調査報告会



出土遺物の展示

### 寺院官衙遺跡調査課程に参加して

調査研究員 伊藤 邦弘

1996年1月9日、正月気分の抜けきらない中、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センターに向かいました。豪雪の山形から小春日和に一変した景色に戸惑いながらも11日間の研修はスタートしました。

私の参加した研修は「寺院官衙遺跡調査課程」というもので、古代の寺院や、官衙（役所等の公的機能を持つものです）の調査を行う際の方法あるいは注意点等を学ぶものです。

研修は講義形式で行われましたが、奈良県という土地柄を生かして、平城宮の朝堂院と薬師寺の講堂



復元される「朱雀門」

の発掘調査現場を見ることができました。また復元中の「朱雀門」の工事も間近で見ることができました。

中でも興味を引かれたのは、現在の市役所、町村役場に該当する郡衙、郷関係官衙遺跡の講義と如意寺という山岳寺院（山寺立石寺の様なもの）の調査例でした。前者は各地の遺跡調査例を数多く検証し、具体的に学ぶことができました。如意寺の調査は、絵図面と伝承を手がかりに山中深く入り込んで行われたもので、ついに如意寺が発見されたいきさつなどは、「インディ・ジョーズ」を見たときの様な興奮を覚えました。実際に3時間あまり山中を歩いての研修だったので、なおさら印象に残るものとなりました。

とりわけ収穫だったのは、全国から志しを同じくして集まった31名の仲間が増えたことです。私にとって掛け替えのない財産となることでしょう。長いなあ～と思われた研修も1月25日に終了し、今となってもう少し滞在して勉強したかったなというのが本音です。

### 編集後記

発掘調査そして整理作業、報告書作成作業、'95新発見考古速報展... あっという間にセンターの一年が過ぎました。広報誌も4号を数えこれまで寄稿いただきました方々にあらためてお礼申し上げます。(郷)